災害時においては、当初は市などの公的機関からの援助（公助）は期待できず、自助そして隣近所の助け合い（共助）が不可欠となります。災害時に自治会館に設置される災害対策本部に、いち早く情報が収集され、自治会内での共助の実施・公助への態勢の形成がスムーズにいくことが求められます。

自治会員の今までの活動へのご理解・ご協力に感謝いたします。

今後とも、会員の皆様の防災意識の向上と共に、活動が成熟したものとなっていくよう自主防災会活動へのさらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。

文責：筋原祐子

新型コロナウイルス感染で振り回された１年

令和２年度は４月当初から新型コロナの感染の緊急事態宣言が出され、その後もなかなか終息せず、会議や行事の精選を余儀なくされ、十分な話し合いや活動が行えず、もどかしい１年でありました。

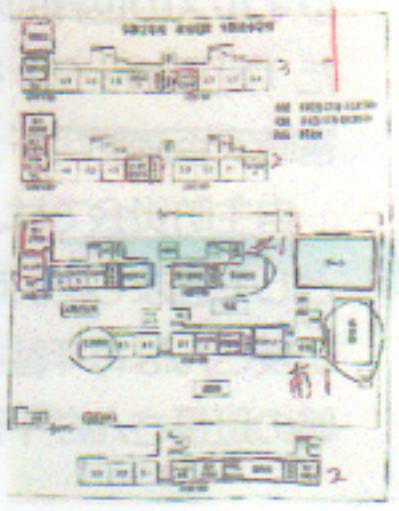
７月には大雨が続き、九州から、西日本、東日本の多くの地域で、河川の氾濫、浸水で多くの方が被災され、死者や行方不明者も出ました。「新型コロナウィルス対策」の下での「３密回避」という大きな課題と並行しながらの「避難所開設」という事態になりはしないか、とても心配しながらの１年間でした。幸い、生駒市では台風の上陸や土砂災害、地震など大きな災害もなく胸をなでおろしているところです。

そんな中、１１月１４日に本地域では７度目となる防災訓練を実施しました。例年は班長様に事前に３回に分けて説明会などを行っていましたが、密を避けるため文書によるお願いのみの、ぶっつけ本番で実施しましたが、手際よくスムーズに情報伝達訓練を行うことができました。会員の皆様、班長、役員、評議員、有志の皆様の防災意識の高さと、ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

災害時における生駒市避難所検討会が開かれました

《震度７の地震が発生し、住民の３分の１の方が避難してきたとの想定での避難所の運営》

生駒市自治連合会と生駒市防災安全課の主催で、1月23日（土）AM、生駒市役所大会議室にて、生駒東小学校や、緑ヶ丘中学校などの避難所ごとに、自治会長、防災役員、防災士、避難所にあたる学校長などが集まり、テーマを決めて避難所グループごとに意見を出し合うワークショップ形式の研修会が開催されました。



避難所ごとに「大規模地震が発生したとき、実際に利用する避難所をどのように利用できるかをイメージ」し、「地震災害時の地域での対応計画を検討」し、「令和３年１１月に予定している生駒市総合防災訓練」に繋げていくことが目的です。

1．学校施設配置図を見ながら、学校施設の中で共用部分としてすぐに使える場所、避難者の人数や状況により使える場所、